

### 第3学年道徳学習指導案

日 時 平成21年10月9日(金) 5校時  
学 級 3年A組(男子8名 女子7名 計15名)  
授業者 教諭 澤田 力

1 主題名 勤労の尊さ 4-(5)

2 資料名 「てんびんばかり」(中学生の道徳3年 自分をのばす:暁教育図書)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

学習指導要領第3章「道徳」の内容4-(5)には、『勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。』とある。責任を持って仕事をすることや、自分の仕事を通して社会へ貢献しようとする気持ちを育てる。また、卒業を控え、進路選択の際に自ら進んで社会に貢献できる職業選択を考えるきっかけにする。

(2) 生徒について

非常に明るく、男女も分け隔てなく仲がよい。この地区は漁業で生計を立てている家庭が多く、生徒たちも手伝いをよくしている。働くことに対しての意欲は申し分ない。その反面、漁業以外の仕事に対しての意識・イメージが弱く、自分の将来の仕事を考えることが不得意である。

後の進路選択を控え、今一度自分を見つめ直し、将来の職業を見据えた進路選択を考えるきっかけにしたい。

(3) 資料について

『仕事とプライベート』は同じてんびんでは計れないという内容である。親が緊急事態に急遽出勤することはまれにあることである。子どもたちから見れば、「なぜこんな時に」「どうしても行かなくてはならないのか」と思うことはよくある。しかし、責任を持って仕事をしている以上、行かなくてはならないこともある。このことは、自分が働くようになってからしか理解できないかもしれないが、この資料を通して、勤労に対する考え方を深めさせたい。

(4) 他の教育活動との関連

この単元を通して、『仕事』について考えることで、総合的な学習の時間での『職業に対する理解』を深めたい。また、中学校3年生であるので、将来の進路選択を考える上でのきっかけとしたい。

4 本時の展開

(1) 本時のねらい

責任を持って働くことの大切さを理解させる。また、奉仕の精神を持って進んで実践し、社会全体のために尽くそうとする気持ちを育てる。

(2) 指導構想

一つの事柄に対して、多角的に物事を考える力を育てたい。そこで、ディベート的討論により、生徒自身が考え発言することで、様々な意見があることに気づかせたい。「立論」の際に、家庭としての思いと仕事に行かなければならない父親の思いとを両面から考え、今まで気づかなかった思いを表現させたい。「反ばく」の際には、予想された立論に対しての思いを本音で話し合うことで、様々な思いの中で親が仕事をしていること、さらには将来の自分の思いを考えていくきっかけとしたい。また、将来働くことへの意欲を高めるとともに、発言する力をこの授業を通して身につけさせたい。

(3) 展開

	学習活動	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 資料を読む あらすじを確認する 2 論題提示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こんなうちもあるのか。</li> <li>・うちもこんな感じだ。</li> </ul>	
展	3 現段階の自分の意見を心情円板で表す。 4 家庭側と仕事側に分ける。 A, Bのグループに分けるためにカードを配布 5 立場に基づいて席移動し、それぞれの立場に立ち、自分の考えをシートに記入する	<p>『 家庭と仕事、どちらを取るべきか 』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭があるから仕事ができる。</li> <li>・もちろん家庭。</li> <li>・家庭を支えるために仕事をしている。</li> <li>・もちろん仕事。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心情円板を用い、家庭（赤）、仕事（白）の割合で自分の気持ちを表す。</li> </ul>
開	6 討論開始 ① 家庭側立論【2分】 ② 仕事側立論【2分】 ③ 作戦タイム【3分】 ④ 仕事側質問【2分】 ⑤ 家庭側質問【2分】 ⑥ 作戦タイム【3分】 ⑦ 仕事側反ばく【2分】 ⑧ 家庭側反ばく【2分】 7 立場を解除し、席を元に戻す。	<p>※家庭側：○、仕事側：△</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭があるから仕事ができる。</li> <li>○家で何かあったら対応できない。</li> <li>○家族を守ることが一番の仕事。</li> <li>△家庭を支えるために仕事に行かなくてはならない。</li> <li>△行かないと多くの人に迷惑がかかる。</li> <li>△仕事に責任がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えられない生徒にはいろいろな立場から物事を見るように助言する</li> <li>・立論時のキーワードを紙板書にて掲示</li> <li>・質問時のキーワードを紙板書にて掲示</li> <li>・反ばく時のキーワードを紙板書にて掲示</li> <li>・判定はしない</li> </ul>
終末	8 感想を記入する。 9 教師の思いを語る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かにどちらも大事。</li> <li>・仕事への家族の理解も大事。</li> <li>・どちらともいえない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を記入、最終的な自分の気持ちを心情円板で表す。</li> </ul>

(4) 評価

働くことの大切さに気づき、自分なりの考えを持つことができたか。  
奉仕の精神を持ち、進んで仕事をしようとする気持ちを持つことができたか。

(5) 板書計画

< 反ばく >	< 質問 >	< 立論 >	取るべきか』 『論題 「家族と仕事、 どちらを てんびんばかり
家族	家族	家族	
仕事	仕事	仕事	
...	...	...	
...	...	...	

< 論題 > 《 家庭と仕事、どちらをとるべきか 》

3年 氏名 \_\_\_\_\_

【 家庭側・仕事側としての意見 】

【 予想される意見・質問とその回答 】

【 出された意見 】

【 出された質問 】

【 こちらからの質問 】

【 反駁 】

< 一言感想 >

< 自己評価 >

①自分の意見を持ち、話すことができたか。	4 - 3 - 2 - 1
②友達の意見を聞き、考えを深めることができたか。	4 - 3 - 2 - 1
③自分が今日感じたこと、 学んだことをまとめることができたか。	4 - 3 - 2 - 1